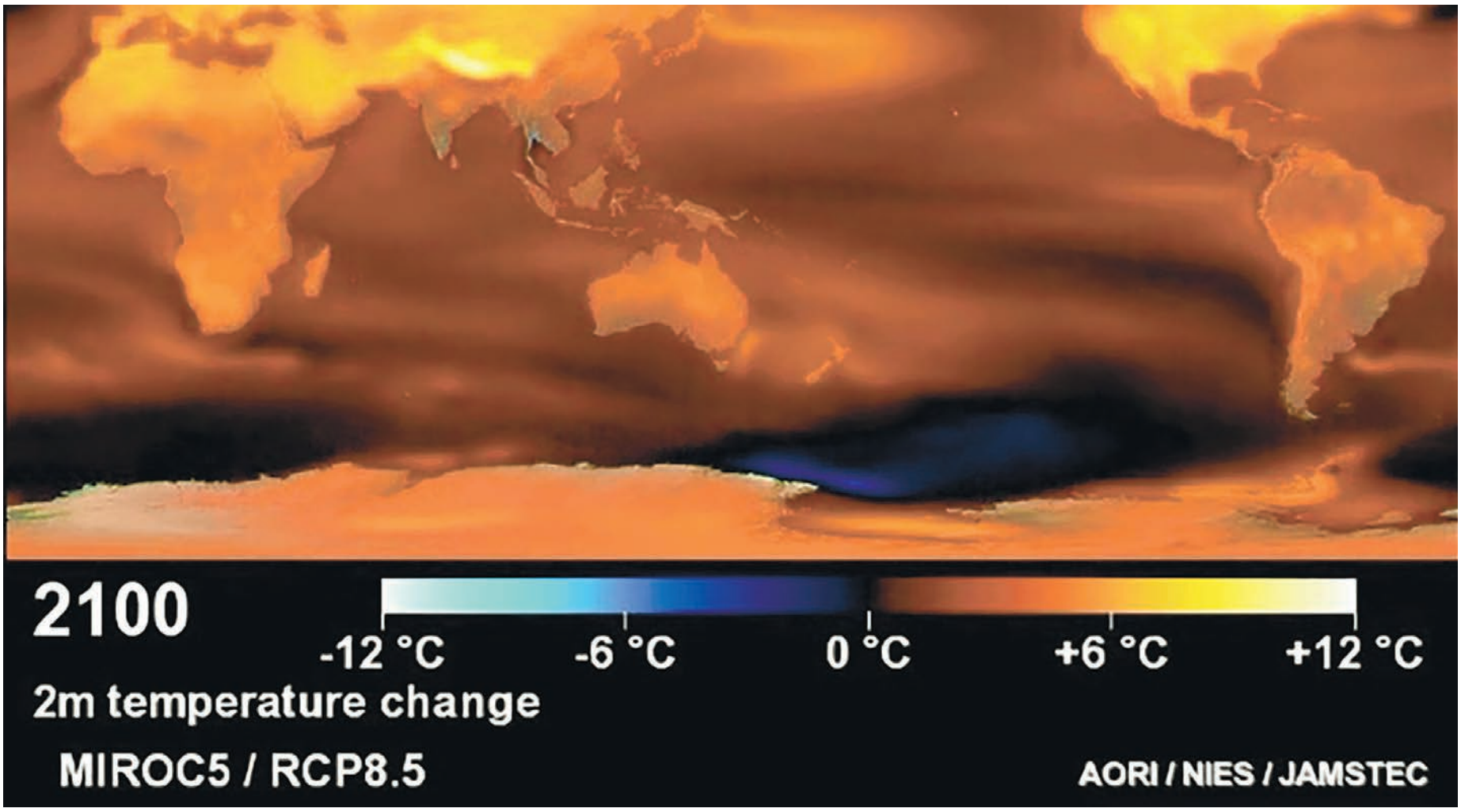
Route Press ルートプレス 21st.

道21世紀新聞
発行所：特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都千代田区三番町 7-1　朝日三番町プラザ
Web　http://www.route-press21st.jp

地球温暖化対策を今以上に施さなかった場合の2100年の世界の気温上昇予測



地球温暖化対策に期待

地球が温暖化にあえいでいる。北極域の海氷域は狭まりアルプスの氷河も後退。ツバルなど南太平洋の島々は海水面の上昇で水没の恐れがあり、住みやすいはずの中緯度帯でも砂漠化が進む。日本も気温の上昇や天候不順が相次ぎ、毎年強力な台風や局地的豪雨が列島を襲う。異常気象が常態化しつつある今、地球温暖化対策は待ったなしだ。環境省は危機意識をもって地球温暖化対策に取り組んでもらう国民運動を推進する。家庭や会社などでエネルギー消費を抑える「賢い選択」を実践してほしいという「COOL CHOICE」（クールチョイス）だ。その啓蒙、啓発の場として「道の駅」が注目されている。

「地球に優しい」最先端技術や企業活動、市民活動、自然保護運動など「環境への配慮」を総合した地球温暖化対策が求められている。

宇宙から見た地球は海の青さと陸の緑が美しい惑星だ。しかし、人工衛星画像を見ると、南北両半球の中緯度帯に雲の少ない乾燥帯が大きく広がる。日本は中緯度・乾燥帯にあっても例外的に「緑豊かな国土」を持つが、地球的にはユーラシア大陸の東の最果ての小さな島国だ。アジアモンスーン帯の大陸の縁辺で、地震や台風の常襲地帯に位置し、自然災害から逃れられない環境にある。

46億年かけ大変動を繰り返してきた地球。有史以来、祖先が自然とどう共生してきたか。列島に人が住み始めて以来、人の手による様々な働きかけで安全に住める領域を広げ、生産適地を拡大した。

地球温暖化、緑の喪失と砂漠化、オゾン層の破壊……。地球環境の危機を憂えるだけでは問題は解決しない。私たちは、地球温暖化から日本を、地球を守り、子孫に住みやすい国土を引き継ぐ責務がある。豊かな低炭素社会づくりを目指し、国を挙げて取り組むための旗印が「クールチョイス」である。

クールチョイスのロゴ

賢い選択

クールチョイス発信の拠点に

国は2015年6月、第29回地球温暖化対策推進本部において、30年度の温室効果ガスの排出量を13年度比で26％削減する目標を掲げた。その達成に向け、政府だけでなく国民や事業者が一致団結して温暖化対策を推進する国民運動「クールチョイス」を展開すると発表した。30年まで継続する息の長い国民運動だ。

運動開始後1年半が経過するが、「クールチョイス」の認知度は30％にとどまっている状況で、国民生活になじんだ運動として定着していないのが実情だ。このため環境省は多岐にわたる普及啓発を実施しており、その中で浮上した「道の駅」も普及啓発活動拠点の一つである。

道の駅は16年10月現在、全国に1107カ所が登録され、今や地方創生の拠点としても注目を集める。日本の将来は地方が元気になることにかかっているとも言われる。道の駅は地域経済の浮揚はもとより、地域の課題解決の「小さな拠点」として、暮らしを支える公的施設である。

すでに国民運動「クールチョイス」の情報発信拠点として活動する道の駅が各地に存在する。日本が世界に誇る低炭素型の「製品」「サービス」「ライフスタイル」など、地球温暖化対策に役立つ様々な「賢い選択」を促す国民運動「クールチョイス」とはどんな運動か。私たちに何が求められ、私たちは何ができるかを考えたい。

桜が知らせる温暖化

4月1日開花ラインが北上

低炭素社会目指し

環境省がクールチョイス運動

さくらの開花だよりもちらほら届いているが、長年の観測結果から、開花時期は地球温暖化により春先の気温の変化に伴って早まっていることが分かっている。自然に大きな影響を与える地球温暖化に対し、危機感を共有し、低炭素な「製品」「サービス」「ライフスタイル」のメリットを伝え、行動につなげていこうという施策が、環境省が進める「賢い選択」を促す「COOL CHOICE」（クールチョイス）運動である。

1960年代（1961～70年）と2000年代（2001～10年）のさくらの開花日を平均して比較すると、60年代の4月1日には、神奈川県の三浦半島から和歌山・三重・奈良各県にまたがる紀伊半島にかけての本州の太平洋沿岸と四国、九州で開花していた。それが2000年代には同じ4月1日に関東甲信、東海、近畿、中国地方でも開花するようになってきた。＝図

早咲きで知られる河津桜だが、今年も2月中旬には満開に

ソメイヨシノの4月1日の開花ラインの変化

現在以上の温暖化対策をとらないと、最高気温が30度以上となる真夏日の日数は更に増加すると予測されている。東京の今の真夏日は年間約46日だが、21世紀末には年間約103日と、1年の3割近くが真夏日になるという。

気候変動は世界的に進む傾向で、地球温暖化への危機意識は世界共通の課題になった。「国連気候変動枠組条約」の締約国会議（COP）で世界全体の取り組みが協議されてきたが、15年11月、パリで開催されたCOP21でパリ協定が採択され、16年に発効した。

先進国だけでなく、初めて途上国も参加し、世界の平均気温上昇を2度未満に抑えることを目標に掲げた、法的拘束力のある協定である。日本も協定の一員として、協定の長期目標を見据えた戦略的な取り組みを明確にし、「30年度に温室効果ガス排出量を13年度比26％削減」という目標達成に向け、国民一丸となった対応が急務になった。それを具体化する取り組みの一つが「クールチョイス」である。

世界の平均気温上昇を2度未満に抑える目標を達成するには、今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにして低炭素社会を実現し、持続可能なものにするしかない。

企業には温室効果ガスの排出抑制はもとより、今後の低炭素社会構築に役立つ技術を通して、新しい暮らしの選択肢を提供する役割がもとめられるようになった。未来を見据えて事業を推進し、環境に配慮しないと生き残れない時代となりつつあり、こうした企業意識が社会的にも求められている。

統一ロゴを設定

そのためには官民挙げての取り組みを加速させる必要があり、日本が世界に誇る低炭素型の製品、サービス、ライフスタイルなどを、国民の「賢い選択」で進めてもらうことで、温暖化対策を推進していく。

具体的には、国民が一丸となって温暖化対策につながる選択をしてもらえるよう、統一ロゴマークを旗印として設定。政府や産業界、NPOなどが連携して、広く国民に呼びかける。多様なテーマで産学官民が一体となった、ライフスタイル変革への息の長い取り組みである。

このため政府は、クールチョイスに賛同し協力する自治体に対し、補助金を用意して活動を支援していく。

低炭素なライフスタイルへの転換で取り組みが進んでいるのが「クールビズ」や「ウォームビズ」で、広く定着してきた。冷房温度の設定を上げてエアコンの電力消費を抑え、ネクタイや背広、スーツ着用などは自由にするクールビズ。暖房温度設定を低めにして同様に省電力モードにするウォームビズは、既にお馴染みのクールチョイスの一例である。

取り組みの例は「低炭素製品への買換え」「低炭素なサービスの選択」「低炭素なライフスタイルへの転換」などが挙げられる＝表。過疎地の公共交通問題や高齢者問題では既に「道の駅」でコミュニティバスの運行が、用品の配達、高齢者の見守りなどを始めているところもあり、福祉の充実の視点から公共サービスを重視する道の駅は増えた。

自転車の利用、エコカー、地産地消などもクールチョイスとされるが、道の駅は地産地消を原点として農林水産・畜産業との連携を進め、EV充電器を設備し、サイクリングロードの拠点になっているところもあるなど、国民運動の基地としては格好の存在といえる。

他にもいろいろなクールチョイスが進んでいる。エコドライブは「低炭素なライフスタイルの転換」の代表例だ。日本のCO$_2$排出量の約2割を運輸関係が占め、その9割は自動車から排出され、削減対策は重要な課題だ。CO$_2$排出量の多いガソリン車から電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド車（PHV）への転換。水素を燃料とする燃料電池車は究極のエコカーと言われ、エコカー技術は日本が世界をリードする。

EVやPHV普及に共通する課題は充電器の設置促進だが、EV充電器を設置する道の駅は急速に増えており、さらに普及するのは確実だ。

環境省が推進を呼びかけているのは「低炭素型製品への買換え」や「低炭素サービスの選択」である。省エネ家電の例を見る。原発事故以来節電意識が浸透したが、低炭素社会実現のカギは家庭内の電力消費が握る。

最も電力消費量が多いのは冷蔵庫だが、家電の省エネ化は急速に進み、約10年前に比べて現在は約半分になった。LEDの商品化は日進月歩。白熱電球をLEDに切り替えようという政府の呼びかけもあり、照明の長寿命化、省エネ化という大変革をもたらした。シーリングライトでは明るさを自由に操作できる調光技術が一般化し、ライフスタイルに変化をもたらした。

このように「クールチョイス」は少しずつ広がっているが、本格的な運動への普及はこれからが本番である。

クールチョイスの取り組みの代表的事例

■低炭素製品への買換え
- LED・エアコン・冷蔵庫・エコカーなどの省エネ製品
- 高効率給湯器、節水型トイレ
- 高断熱高気密住宅の新築・リフォーム

■低炭素サービスの選択
- 公共交通　カーシェアリング
- 宅配便の再配達を減らす
- スマートメーターによる「見える化」

■低炭素なライフスタイルへの転換
- クールビズ、ウォームビズ
- クールシェア、ウォームシェア
- エコドライブ、自転車の利用、地産地消

（2016年度版スマートライフおすすめBOOKなどより）

賢い選択

リンゴ産地大丈夫？

影響大の気候変動

局地的豪雨、島々は水没の危機

身近な果物と言えば青森や長野など北のリンゴと和歌山や愛媛など南のミカンだ。地球温暖化による気候変動は人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与え、食料生産や健康など暮らしにも影響を及ぼし始めている。

リンゴは秋に色づくが、その時期の気温が高いと色づきが悪くなり遅くなる。収穫は色づきの程度で判断するため、収穫時期に影響する。昼夜の温度差が大きいほど実が引き締まり、酸味と甘さが程よく混ざった味の濃いりんごが出来るという。気温が高いと甘味は増すが実の柔らかなリンゴになってしまう。温暖化が進むと、長野県では近い将来リンゴが栽培できなくなると危惧されている。

リンゴやミカンなど果樹は産地が限られ、適合する気候の範囲が狭いため、気候変化の影響は大きく、味の変化以上に外観や生産性低下が直ぐ現れる。夏極端に暑いと、果実に日焼けと呼ばれる火傷のような障害が発生する。

大半のミカンは関東から九州の海沿いで栽培されているが、将来は温暖化の進行で適地が北上し、今の適地の多くは適応策無しでは、ミカンが作れなくなる恐れがある。特にウンシュウミカンは西南日本では栽培できなくなるという指摘もあり、九州や沖縄ではミカンに代わり、熱帯性果樹を作った方が良策、という意見まである。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によれば、陸域と海上を合わせた世界平均地上気温は、1880年から2012年の期間に0・85度上昇したという。最近30年の各10年間は1850年以降のどの10年間より高温で、観測開始以来、2016年は世界の平均気温が過去最高を記録、最も暑い1年になった。

局地的豪雨が大災害を引き起こし、日本近海を含めて水温上昇でサンゴの白化現象などが各地で起き、気候変動の影響は世界中に及ぶ。海面水位が上昇し、南太平洋の島々は水没の危機に瀕する。

産業革命以来、石油や石炭など化石燃料を燃やしてエネルギーを取り出し、経済は成長したが、大気中の二酸化炭素濃度は産業革命前に比べ約40％増えたという。国連のIPCCは、有効な温暖化対策をとらない場合、21世紀末の世界の平均気温は20世紀末ごろに比べ2・6～4・8度上昇し、厳しい温暖化対策をしても0・3～1・7度上昇すると予測。平均海面水位は最大82㌢上昇する可能性が高いとしている。

環境省は国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」推進のため、市町村長らが先頭に立ち住民や各種団体と協力して、地域と連携したCO$_2$排出削減促進事業の継続的実施を支援する補助金の積極的な利用を呼び掛けている。

CO$_2$排出量が増加傾向にある一般家庭や中小事業者への効果的な対策が急がれるが、個々の自発的で継続的な取り組みを促すには、地域の各主体と連携し推進していくことが重要だ。クールチョイスの趣旨を踏まえ、地球温暖化の危機的状況や社会への悪影響について理解を促し、地域の生活スタイルや個々のライフスタイルに応じた、効果的で参加しやすい取り組みを推進して住民の意識改革を図る事業が対象になる。

補助金は上限があり、人口20万人以上の市と特別区が1000万円まで、人口20万人未満の市町村と特別区が500万円までとなっている。

市町村長らは補助金を利用する場合、報道機関やHP上での発表など取り組みを宣言したり、議会決議などで地域の地球温暖化対策の位置づけを明確にする必要がある。

ぜひ賛同を　環境省地球環境局　松澤裕・地球温暖化対策課長

一昨年パリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議で、2020年以降の温室効果ガス削減の新たな国際枠組み「パリ協定」が採択されました。日本は「30年度までに温室効果ガスを13年度比26％削減する」目標達成のため、国内対策を着実に進めていきます。核となる対策が国民運動「COOL CHOICE」です。

産業界・地方公共団体・NPO等と連携し、低炭素型製品への買い換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など「賢い選択」を促す国民運動です。道の駅は、EV・PHVの充電拠点、自転車レンタルの拠点、地産地消の拠点として、国民運動の発信場所となっていただいています。道の駅ならではの地域発のCOOL CHOICEは、道の駅を利用される地元の方々、観光客の方々にとって、地域の良さを実感できる賢い選択といえます。道の駅でのCOOL CHOICEが、地域創生と地球温暖化防止につながることを期待します。

1㌧から10㌔へ　国土交通省道路局　森山誠二・環境安全課長

人ひとりたかが約60㌔。その移動に自動車では約1㌧の道具を用いるのに対し、自転車なら約10㌔で済み、エネルギー効率性の観点からは圧倒的に有利になります。自転車の利用促進がかねてから叫ばれていましたが、現実には、危なそうとかでなかなか進んでいません。

こうしたなか、昨年12月に自転車利用促進法が成立しました。地球環境のためにも政府一丸となって自転車を積極的に利用しようということです。

走行空間の整備、駐輪場の整備、交通マナーの向上、安全な自転車の製造、安心のための保険制度など多岐に渡りますが、国交省道路局で政府全体のまとめ役を務めることになりました。すでに昨年からは、自転車の走行空間を青色の矢印をマーキングし、自動車と共生を図る取り組みも始まっています。

今回を契機に、「1㌧から10㌔へ」の転換が劇的に進むことを期待しています。

COOL CHOICE 推進へ補助金

クールチョイス補助金（地方公共団体と連携したCO$_2$排出削減促進事業）

クールチョイスを踏まえた取り組み例
- クールビズ（冷房時の室温28℃など）
- ウォームビズ（暖房時の室温20℃など）
- 省エネ家電の買換え・普及促進（LED他、省エネ機器への買換え等）
- 照度適正化（照度調整、電灯の間引きなど）
- エコドライブの推進
- カーシェアリングの普及促進
- 公共交通機関の利用促進
- エコカーの普及促進
- エコ住宅（断熱材や複層ガラス、高効率給湯器など）の普及促進
- 住民から募った低炭素ライフスタイルへの転換アイデアの普及啓発

普及啓発の事例
- エコカーへの選択を通じた電気自動車試乗体験
- 地域のスポーツ団体など各種団体との連携
- 広報誌やポスターによる啓発
- シンポジウムやセミナー
- 小学生を対象に実施する環境教室など青年層の人材育成
- イベントの開催

補助対象者と補助額
- ①人口20万人以上の市・特別区　定額（10000千円上限）
- ②人口20万人未満の市町村・特別区　定額（5000千円上限）

子どもたちを対象にした環境教室

スポーツ団体との連携

問い合わせ先　環境省地球環境局国民生活対策室（03・5521・8341）

EV試乗会＝道の駅「平成」で

COOL CHOICE

クールチョイス次々

全国の「道の駅」で意識的に「COOL CHOICE」に取り組んでいる駅はまだ少ないが、道の駅が本来備えている地産地消や地域の自然との共生などの特質は、クールチョイスの目的と同じ方向を指している。今後その取り組みを充実させるには、どうあるべきか。地元自治体と連携しながら、地域の特色を活かしてクールチョイスに取り組む道の駅を、エコビレッジ構想の富山県南砺市、バイオマス産業都市構想の島根県飯南町、福島県南相馬市、熊本県阿蘇市を例に紹介する。

富山県南砺市のエコビレッジ構想

富山県南西部に位置する南砺市。世界遺産「五箇山合掌造り集落」を擁し、日本の原風景とも言える地域で、自然と共生し、環境への負担が少ない暮らしを目指す「南砺市エコビレッジ構想」を展開している。

人口減少や高齢者世帯の増加、地球温暖化による気候変動など変化が予測される中、人と人、人と自然の関係を問い直し、豊かさが実感できる新しい暮らしを探る。人、自然、経済、情報など地域資源を活かし、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」4分野の相互連携で地域の自立と循環を図る。

同市はエコビレッジ構想の推進とともにクールチョイスの普及啓発に努めており、クールチョイスの補助金を活用して独自にステッカーやマグネットを製作、市民に配布している。

さらに活動を発展させるため、たくさんの人が集まる道の駅に注目。ツールの配布やパネル、POPによる情報発信を行うなど、市と道の駅が一体となってクールチョイスを推し進めている。南砺市にある道の駅には、それぞれに異なる魅力があり、EV充電器の設置を積極的に進めることで、EVで快適な旅が楽しめる地域を目指しながら、温暖化対策に取り組んでいる。

道の駅　たいら

（五箇山和紙の里）

古くから和紙作りが盛んで、バラエティーに富んだ和紙製品を展示・販売し、手すき和紙を作る体験コーナーもある。良質の和紙は千年もつと言われる。環境にやさしい和紙がさらに注目されるよう、新しい手法やデザインを取り入れながら製品作りを進めている。

この道の駅のクールチョイスは、EV充電器へのステッカーの貼付や館内でのパネル掲出で普及啓発に努めている。

南砺市東中江215
電話0763・66・2403

たいら

上平

道の駅　上平

（ささら館）

県の最南端に位置し、五箇山や白川郷の合掌造り集落にも近い。全国でも珍しい生のイワナを使ったイワナ寿司を提供するレストランがある。

この道の駅のクールチョイスは地元産の食材を使った赤かぶ漬けや五箇山そばなど。シールを使って地産地消の促進に努める。

南砺市西赤尾町村中72―1
電話0763・67・3141

島根県飯南町のバイオマス産業都市構想

島根県飯南町は県中南部に位置し、面積の約90％が森林の自然豊かな高原地帯。町は力強い農林業を次世代に継承することを目指し「バイオマス産業都市構想」を掲げる。農業は年々衰退、人口減少と高齢化の問題を抱える。

今後の産業の支えは豊かな自然であり、地の利を活かした農業振興を最重要とし、1次産業を柱とする地域産業の活性化を図る。具体的には①町内バイオマスにこだわった「飯南町特別栽培米」の生産②木質バイオマス利用の拡大による里山再生と地域経済の活性化③見える農業、安心な農産物「飯南ブランド」形成④6次産業化推進による地域内雇用の創出である。

町内で発生する家畜排泄物と林地残材から作ったおが粉を使って良質堆肥を作り、減農薬・減化学肥料化を進めた水田で「飯南特別栽培米」を作って販売。木質バイオマス利用は、里山再生を目的に林地残材や竹を燃料として利用する施設整備を進め、里山の継続的な健全化を図る。食品廃棄物と紙ごみをバイオガス化して電気や熱とする可燃ごみエネルギー利用も推進。

バイオマスや宿泊施設付きの農園クラインガルテンなど、環境を大切にする地域の特色を発信するため、クールチョイスキャンペーンをスタート。宿泊施設で連泊者のシーツや枕カバー交換を希望制にするなど、エコプログラムを実践中で、宿泊客がドアノブに下げるクールチョイスカードを用意している。

産直市コーナーでは、地元の農作物にクールチョイスのシールを貼付したり、パネルの掲示で地産地消をアピール。カフェではコーヒーのカスを地元の農家に提供し、環境にやさしい洗剤を使っている。ゴミ削減のためオリジナル保冷バッグの製作・販売も検討、環境にやさしい地域作りに取り組んでおり、エコツーリズムのメッカとなることを目指している。

飯南町花栗48
電話0854・72・1111

とんばら

COOL CHOICE
賢い選択

道の駅　福光

（なんと一福茶屋）

棟方志功ゆかりの地・福光。ここで6年余り、創作活動を行った。

川の美しさをアピールする「だまし川のほたるとかっぱ村祭り」や南相馬の子どもたちの作品とともに、巨大な紙風船が夜空に舞い上がる「南砺ふくみつ雪あかり祭り」など、豊かな自然の中だからこそできるユニークなイベントを多数実施。リサイクル市や貸し農園の運営も行う。

この駅のクールチョイスは地元産の野菜や特産品など地産地消を積極的にアピールしている。

南砺市中ノ江16
電話0763・52・4100

福光

道の駅　井波

（木彫りの里　創遊館）

井波は彫刻で知られる。木彫り製品の展示・販売に加え、銘々皿や小物入れなどを作る体験コーナー、木彫り作家の作品や製作風景が見られる工房もある。

この道の駅のクールチョイスは、井波を中心とした朝どれ野菜を販売する緑の市（6～11月）の開催や、レストランでの地元食材をふんだんに取り入れたメニューの提供。食材の地産地消に努め、パネルでの啓発も行っている。現在、館内の劇場「映像体感シアター」を活用したクールチョイスの啓蒙なども検討中。

南砺市北川730
電話0763・82・5757

井波

COOL CHOICE

地域の特色活かして

東日本大震災から6年、熊本地震からも1年が経つ。被災地の道の駅でも、復興への努力の傍ら、クールチョイスを推進しようという動きが出始めている。福島と熊本の道の駅の取り組みを紹介する。

福島県南相馬市

福島県浜通りの北部に位置する南相馬市。東日本大震災と大津波による福島第一原子力発電所の事故で大打撃を受けた。被災から5年余が過ぎた昨夏、大部分の地域で避難指示が解除され、地域の伝統神事「相馬野馬追」も継続して、復興への歩みが続く。復興の着実な前進のため平成27年、「みんなでつくる　かがやきと　やすらぎのまち　南相馬　～復興から発展へ～」を掲げ、都市将来像を描く復興総合計画を策定した。

計画は基本指針の1つに「環境にやさしく、快適に暮らせるまちづくり」を掲げた。ふるさとの自然を再生し未来に引き継ぐため、豊かな生態系を保全し、環境への負荷が少なく自然と人が調和する快適な環境作りを目指す。原子力に依存しない再生可能エネルギーの積極的な導入推進や、市民・事業者・行政が主体的に取り組むスマートコミュニティなどを推進し、環境にやさしいまちづくりを進めている。

地産地消やレジ袋削減の取り組みなど、「COOL CHOICE」の取り組みに関するパネル展示やポップを掲出、地球温暖化対策に関する普及啓発活動を行っている。物産館では、農産物など地元生産物にこだわりをもった食材を使用。地球温暖化対策の観点からも、地産地消は輸送に係るCO2削減ができ、環境負荷の少ない取り組みの1つだ。

地元の小高商業高校の生徒が開発した福島県産の大根を使用した「小高だいこんかりんとう」や、特産品の黄色いハートかぼちゃを使用した「かぼちゃタルト」や「かぼちゃまんじゅう」など、地元の農産物を地元企業で加工し、販売する6次産業化商品も積極的に開発している。

南相馬市原町区高見町2―30
電話0244・26・5100

道の駅　南相馬

市の中心に位置し、警察署、消防署、市立病院等が近接、道路利用者と共に多くの市民が訪れる。平成19年の建設当初から太陽光発電システムを導入し、その後EV用急速充電器を設置するなど、環境に配慮する。

南相馬

COOL CHOICE
賢い選択

熊本県阿蘇市

熊本県阿蘇市周辺一帯は昨年4月、立て続けに2回も震度7の激しい地震に見舞われ、多くの道の駅には車中泊の避難者が押し寄せるなど、混乱が続いた。しかし、1年経った今は地域も落ち着きを取り戻し、観光入込客数等は徐々にではあるが回復傾向にある。

世界ジオパークに認定された阿蘇は、阿蘇山を中心とする雄大な自然によってもたらされる豊かな恵みを観光資源とし、海外からも多くの旅行者が訪れる。サイクリングも盛んで、道の駅も設備を整えている。

道の駅　波野

（神楽苑）

伝統芸能の神楽を見たり、学んだりできる道の駅だ。敷地内にそば工場があり、手ぶらで行って、そばの実の収穫からそば打ち体験ができるのも魅力の一つ。

レストランではそばメニューが特に充実。山菜など地元野菜中心の和食メニューも人気だ。打ちたてのそばやそば茶、そば焼酎のほか、旬の高原野菜なども販売しており、クールチョイスのPOPやパネル、シールなどで地産地消をアピールしている。

林道阿蘇東部線に近く、サイクリングの途中で立ち寄る利用客も多いので、サドルラックを設置している。

阿蘇市波野小地野1602
電話0967・24・2331

道の駅　阿蘇

道の駅阿蘇は阿蘇パノラマラインの起点で、風光明媚な渓谷「仙酔峡」や「内牧温泉」へのアクセスが良い。高い情報発信力で阿蘇の魅力を伝えている。

サイクリングを観光の目玉と位置づけ、レンタサイクルやロードバイクのサドルラックを設置。その周囲にはクールチョイスののぼりを立て、快適なツーリングをサポートするとともに、温暖化対策の啓発を行っている。

国内外で高い評価を得た特産品やこだわりの新製品などをラインアップする「阿蘇プレミアムコーナー」では、特産品コンシェルジュが紹介にあたっている。生産者、販売者、道の駅が定期的に会合を開いて売り場作りに取り組み、クールチョイスのパネルやシールで来店客へ啓発。売上の85％が阿蘇産という成果を上げている。地元産品は野菜だけでなく、精肉やソーセージなどの加工食品も含まれる。

県立阿蘇中央高校と連携し、地元食材を使って生徒がメニュー開発した弁当や、生徒が作った農作物の販売にも力を入れるなど、独自の地産地消活動を進めている。

阿蘇市黒川1440―1
電話0967・35・5088

◇　◇　◇

クールチョイスのホームページには、その他さまざまな活動が掲載されています。ぜひご覧ください。

赤来高原

波野

阿蘇

道の駅　赤来高原

県の南の玄関で、周辺には貴重な植物や生き物の宝庫である赤名湿地性植物群落や県民の森など、高地特有の豊かな自然がある。

高速道尾道松江線が開通して国道54号の交通量が減り、バイクや自転車が走りやすい環境になったため、レンタサイクル事業をスタート。のぼりやステッカーでクールチョイス啓発に取り組んでいる。今後は子ども用の自転車も導入。周遊マップ作りやガイド付きサイクリング、農業体験ができるサイクリング企画なども実施しており、家族みんなでツーリングを楽しみながら、地球温暖化対策への関心も高めてもらうよう努める。

所有のモニターなどを活用し、温暖化防止の啓発映像を放映して訪れる人の意識向上にも寄与。建物には太陽光パネルが設置されている。

飯南町下赤名880―3
電話0854・76・2007

エコカー普及推進

道の駅でイベント

4駅でクールチョイスの啓発活動

充電ステーションのある道の駅4カ所で1月から2月にかけ、エコカー普及推進イベント「ワクワクEV・PHEV試乗会&トークショー」が開催された。環境省が地球温暖化に対する意識向上を目的に提唱する「COOL CHOICE（賢い選択）」の普及啓発活動の一環で、道の駅を設置している各市町村が、同省の「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用して主催した。イベントを実施したのは、千葉県多古町の道の駅「多古」／岐阜県関市の「平成」／北海道真狩村の「真狩フラワーセンター」／茨城県下妻市の「しもつま」の4カ所。「クールチョイス」というキャッチフレーズの浸透を図り、合わせて電気自動車（EV）の普及促進が目的だ。

EV用の充電器を設置する道の駅は増えているが、EVに乗ったことがある人はまだ少ない。しかし、温暖化対策にはCO2排出量の削減は至上命題であり、EVの普及は欠かせない。

試乗会には日産、三菱など国産メーカーだけでなくBMW、VWなど多くの車種が結集したため、どこも大勢の試乗者でにぎわった。EVの静かさや加速の良さを体感した参加者は、口々に「EVのイメージが変わった」などと話していた。

トークショーでは、有識者や各自治体の首長らも登壇。EVのメリットを話し、地域独自の取り組みなどを説明。深刻な地球温暖化の現状を伝える環境省のDVD「気候変動への挑戦」も放映した。

また、道の駅大好きのシンガーソングライター、ゴライトさんがオリジナルソング「電気自動車に乗ろう！」を披露。クイズも実施するなど会場を楽しく盛り上げた。各会場とも、試乗会はトークショーを含めた前後の週末に3日間開かれ、トークショーや試乗を楽しんだ。

ゴライトさんの歌やクイズで盛り上がり、楽しい一体感も生まれた（下妻で）

電気自動車に乗ろう！

作詞・ゴライト&本郷安史
作曲・ゴライト

電気自動車に乗ろう！
地球にやさしくエコだ。
楽しくドライブ　地球もみんなも笑顔。
COOL　CHOICEってなーに？
地球のためにできること。
一人一人が賢く選択しよう。
電気自動車に乗ろう！
地球とひとつになるよ。
ランララランララン。
ランララランラララン。

現状を知り、私たちに出来ることを考えようと、真剣に議論（多古で）

子どもたちもゆるキャラと一緒に試乗会を楽しんだ（平成で）

雪の中でも親子連れも駆けつけEVへの関心は強い（真狩フラワーセンターで）

試乗を楽しんだ。

クールチョイスの関係者は、このイベントを通して、道の駅のような地域に根差した会場で継続的にEVや地球温暖化に関する理解促進活動を行う意義を実感。EVの普及促進の他にも「地産地消の推進」、「分散型エネルギーシステムの導入」、「省エネ家電の推奨」など、地球温暖化対策の普及啓発の拠点として道の駅はうってつけであることを確認した。

息の長い取り組みを

地域でのクールチョイスの普及啓発活動の価値は、人々と共にサスティナブルな社会を創造するプロジェクトを継続することで、関係者は「ぜひ補助金制度などを活用して、地域と共生する息の長い取り組みにしていただきたい」と話している。

◇　◇　◇

以下は4会場の報告。

【多古】

最初のトークショーは1月29日、千葉県北東部の多古町で開催。トークショー第一部は『クルマでクールチョイス発見、EV・PHEVの魅力』と題し、EVに詳しく自らも市販EVのBMW『i3』オーナーの片岡英明氏が講師となり、航続距離が短いといわれる電気自動車だが、電池を多く搭載して1充電で約500キロメートル走れるEVが既に市販されていることなど、EVの基本的な知識を紹介。

第二部は、同町の菅澤英毅町長と地球温暖化防止コミュニケーターの田中和孝氏が『クールチョイスでSTOP地球温暖化』をテーマに、地球温暖化の現状などを映像で紹介。LED照明の消費電力が小さいことを田中氏が実験を交えて説明するなど、日常生活で実践できる「クールチョイス」を紹介した。

【平成】

2月5日のトークショーは、EV講師役に日本EVクラブ副代表の御堀直嗣氏が登壇。「乗り方次第でEVは走りも楽しい」ことなどを紹介し、より多くの魅力的なEVが登場するよう、国内自動車メーカーへの期待を語った。

第二部は、関市経済部の永田千春部長と、地球温暖化防止コミュニケーターの山本学氏が登壇。関市が積極的に再生可能エネルギーなどの「クールチョイス」に取り組んでいることを紹介した。

岐阜県は都道府県別の人口1万人当たりのEV保有台数が全国2位の9・56台（平成27年の統計値）で、EV普及が進んでいる地域。それでも、道の駅駐車場に試乗車以外のEVはほとんど見当たらない。より広く低炭素モビリティを普及させていくため、こうしたイベントなどによる理解拡大が不可欠である。

【真狩フラワーセンター】

2月12日は、雪景色に包まれた中で開催。EVの講師役は再び片岡英明氏。第二部には真狩村の佐々木和見村長が登壇し、真狩村のクールチョイスへの取り組みについて説明。いち早く太陽光発電パネルの設置などに取り組んできたことが紹介された。

北海道地球温暖化防止活動推進センターの安保芳久氏は、北海道のライフスタイルの中では冷蔵庫の使い方に気を付けたり、LED照明を活用することなどを話した。

【しもつま】

4週連続のトークショーの最後は2月19日。講師は日本EVクラブ代表を務める自動車評論家の舘内端氏。今のままでは地球温暖化とともに自家用車が使えなくなる可能性を示唆した上で、EVはエコなだけでなく、楽しくパワフルな乗り物であることなどを分かりやすく解説。

第二部は、地球温暖化防止コミュニケーターの秋田敏雄氏がクイズ形式で地球温暖化の現状を紹介、自分にできることから始める大切さを訴えた。下妻市の稲葉本治市長も、夏のグリーンカーテンや公用自転車の配置など、「できることから」始めている市の取り組みを説明した。

賢い選択

温暖化など環境を考える

気象キャスターネットが一役

子どもたちへ啓蒙活動

地球温暖化など環境に対する関心を高めるには、次世代を担う子供たちに小さいころから温暖化問題に興味を持ってもらう環境教育が大切だ。気象予報士や気象キャスターが集まるNPO「気象キャスターネットワーク」は、子どもたちへの啓蒙活動に力を入れる。日テレ「デイリープラネット」の気象キャスターで同NPO代表の藤森涼子さんと、理事でテレビ朝日「スーパーJチャンネル」の気象キャスター、今村涼子さんに聞いた。

子供たちに分かりやすく気象の出前授業をする藤森さん

藤森涼子さん

藤森涼子さん

同NPOは子ども向けに環境や防災をテーマに「出前授業」や「お天気実験教室」、大人向けに講演・企業研修などを手掛けている。子どもたちは天気予報やニュースをよく見ており、天気の話は興味深く聞いてくれるという。

子どもたちに「無駄のないエネルギーの使い方をしましょう」などと話し「今日聞いた話を周りの人にも教えてあげよう」とセットで伝える。クイズや参加型コンテンツなどを実施して、同行している大人にも一緒に理解してもらえるよう工夫もこらす。

気象キャスターネットワークは、環境省と気象研究所が発表した予測をもとに3分ほどのコンテンツ『2100年 未来の天気予報』を制作、イベントで必ず見せる。これが人気で大人の反応も大きい。

地球温暖化対策をせずに2100年を迎えた場合、どんな天気になるか、天気予報のように伝える。

「2100年の夏は全国的に猛烈な暑さで、今日の最高気温は高知県四万十市で44・9度、東京も43・6度と記録的な暑さになり、今日までに全国で約12万人が熱中症で病院に搬送されています」といった具合だ。今のままでは日本の気候は大きく変わってしまうと温暖化の話をすると、大人も子どもの未来を守るには何をすればいいか真剣に考えてくれる、という。

地球温暖化がこのまま進むと、今の小学生が働き盛りの30代半ばになる40年ごろに気温は2度以上、2100年ごろには最大4・8度も上昇すると言われ、未来の天気予報通りになるかもしれない。

藤森さんは「気象キャスターの使命の一つとして、地球温暖化防止活動を続け、低炭素社会実現に少しでも貢献できれば」と話している。

今村さんも親子向けイベントに積極的に取り組む

今村涼子さん

今村涼子さん

このままでは、地球温暖化で日本の気候はおかしなことになってしまう。悲観的な将来を招かないためにも、子供たちに地球温暖化について小さいころから知ってほしい。今村さんも親子向けイベントに熱心に取り組む。

この冬、北海道の一部は平年より気温が低かったが、日本全体で見れば暖冬傾向で、特に12月は暖かかったが、1月中旬に日本を寒波が襲った。北極から寒気が流れて大陸からの高気圧に押され、列島にとどまったからだ。

今村さんは「東京の気温が0度未満になる冬日は、1950年代は年間35日以上あったが、2000年代以降は年間3～4日。100年くらいの期間で見ると、札幌と東京の冬の最低気温の平均が、6度近く上がっており、暖冬は増えた」という。

気温が上がっているといっても、ずっと暖かいわけではない。1月13日の東京は最高気温が13度だったが、翌14日は6度に下がった。「急に寒くなったり局地的に大雪が降るなど、短い期間で寒暖の差が激しくなるのは、地球温暖化の影響」と今村さん。

1月の東京の朝の気温は、平均1度くらいだが、温暖化がこのまま進むと21世紀末には5度くらいまで上昇する可能性が指摘されている。東京だと3月の朝の気温と同程度だ。暖冬による様々な影響を今村さんは「雪は日本にとって大切な水資源。雪として水を貯めてきたのに、雪が少なくなると春先に水不足が起き、農作物に影響が出るかもしれない」と危惧している。

読者の声

環境問題については、道の駅利用者の関心も強い。これまでにルートプレス紙に寄せられた「読者の声」の投書から、何人かの声を紹介する。

☆充電器道の駅に

「EV充電器を道の駅に」の記事を興味深く読ませていただきました。道の駅で充電できれば、EV・PHV車普及に役立ち、道の駅の存在価値がさらに大きくなるでしょう。車社会にとって道の駅が今後もますます地域に密着した交流、ふれあいの場として発展するよう期待しています。（熊本県球磨郡　無職男性・59歳）

☆道の駅からエコ

燃料代の高騰が続き、電気自動車やハイブリッド車に乗り換える方が増えていますが、充電可能スポットが限られているのが問題です。エコで利便性の高い生活が望まれますので、道の駅やガソリンスタンド、高速自動車道、観光地などで充電できるよう充電スポット拡充を願います。（鹿児島県姶良市　主婦・30歳）

☆EV充電の記事

我が家の車を買ってからもうすぐ10年。買い替えてハイブリッドに？電気？といろいろ買い替え話が出ています。先日、久々に思春期の男の子二人を含め家族で日帰りドライブに出かけて道の駅で貴紙を手に入れましたので、EV充電器の記事、為になりました。帰途、クロスワードを皆で解いたことでも、日ごろは会話の少ない車中を楽しく過ごせました。感謝デス！（奈良県生駒市　主婦・44歳）

☆充電心配ない県

私の住む山形県では、すべての道の駅に電気自動車用の充電インフラが整備されています。いまが旬のさくらんぼを求め全国からたくさんの人々がいらっしゃいますが、電気自動車でお越しになられても心配ありませんからどうぞ。（山形県村山市　農業男性・48歳）

☆薪ストーブ賛成

「薪ストーブでエコ暖房推進」を読みました。大賛成です。我家でも薪ストーブです！昨年12月、福島県へ十勝の食材を持参して被災者といろいろ話し合いました。家があるのに帰れない苦しさ、くやしさを訴える声をうかがい、寒さ厳しい北海道でも電気を使える我家の有りがたさを改めて思いました。（北海道河東郡　主婦・69歳）

地球温暖化問題に関するアンケート

Q1. 地球温暖化対策のための国民運動「クールチョイス」をご存じですか
①ルートプレス21st. で初めて知った　②以前から知っていた
・どこで知ったか教えて下さい。（　　）

Q2. あなたの身の回りで温暖化の影響を感じることがありますか
①感じない　②たまに感じる　③強く感じる

Q3.「たまに感じる」「強く感じる」と答えた方で、温暖化の影響として特に実感することは何ですか（2つまで）
①年々気温が上昇している　②集中的な雨が増えている
③干ばつが増えている　④大きな台風や低気圧が発生している
⑤生態系がおかしくなっている　⑥農作物の味や品質が変わっている
⑦その他（自由回答）

Q4. 日々の生活で、温暖化対策として何を心掛けていますか（自由回答）

Q5. 道の駅でできる温暖化対策のアイデアを教えて下さい（自由回答）

Q6. この環境問題特集はどこの道の駅で入手されましたか
○○県の道の駅「○○○○○○」

●「クールチョイス」への賛同について　あなたも、ぜひ「クールチョイス」にご参加ください。
詳しくは、環境省「COOL CHOICE」賛同登録ページをご覧ください。「クールチョイス」で検索を。

ご回答方法

ハガキに①郵便番号②住所③氏名④年齢⑤職業と、回答を記入の上、投函してください。宛先は〒102－0075東京都千代田区三番町7－1朝日三番町プラザNPO人と道研究会。締切は5月31日（水）。回答者の中から抽選で20人に記念品を贈ります。なお、個人データを外部に開示することはありません。

Route Press ルートプレス 21st.

道21世紀新聞
発行所：特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都千代田区三番町 7-1　朝日三番町プラザ
Web　http://www.route-press21st.jp

温暖化対策あゆみ着々

94年発効の国連枠組条約が出発点

国連の下で世界は1992年、大気中の温室効果ガス濃度の安定化を究極の目標とする「気候変動に関する国際連合枠組条約」を採択し、地球温暖化対策に世界全体で取り組むことに合意、条約は94年に発効した。同条約に基づき95年から毎年、気候変動枠組条約締約国会議（COP）が開催されている。

97年に京都で開催された同条約第3回締約国会議（COP3）で、日本のリーダーシップの下、先進国に拘束力のある削減目標を明確に規定した「京都議定書」に合意することに成功し、世界全体での温室効果ガス排出削減の大きな一歩を踏み出した。

しかしその後、アメリカが離脱し、中国も拘束力のある先進国の位置づけではないため、京都議定書の実施期限を迎えた後の新たな枠組みの構築が模索され、2015年パリで開かれたCOP21で20年以降の新たな国際枠組み「パリ協定」が採択された。

パリ協定では、世界共通の長期目標の設定や、すべての国による削減目標の5年ごとの提出・更新、先進国が引き続き資金を提供することと並んで途上国も自主的に資金を提供すること、などが位置づけられた。

日本は15年12月、パリ協定を踏まえた今後の対策の取り組み方針を政府の地球温暖化対策推進本部で決定。この中で、世界規模での排出削減に向けて長期的、戦略的に貢献すること、国際的に約束した目標の着実な実施に向け、地球温暖化対策計画と政府実行計画を策定することを決め、政府が旗振り役となって国民運動を強化することを盛り込んだ。

この国民運動が「クールチョイス」である。日本は環境保全を図りながら発展を実現した経験と、それを支えた技術、人材を活かし、先進国の一員として、率先して気候変動対策に貢献していくことが求められている。

COOL CHOICE

賢い選択

地球温暖化対策のあゆみ

	COP	開催地	世界の動き	日本の動き
1992年			・環境と開発に関する国連会議「地球サミット」（リオデジャネイロ）開催 ・「国連気候変動枠組条約 UNFCCC」に155か国が署名	「国連気候変動枠組条約 UNFCCC」に日本も署名
1994年			UNFCCC 発効。締約国に温室効果ガスの実態調査とその報告を義務づけ	
1995年	COP1	ベルリン	・第1回締約国会議（COP1）開催。COP3（京都）で削減目標を定める議定書採択を約束 ・IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が「気候変動は取り返しのつかない状況」と言及	
1996年	COP2	ジュネーブ		
1997年	COP3	京都	第3回締約国会議（COP3 京都）で京都議定書採択。先進国全体で2008～12年の間に温室効果ガスの1990年比5%削減を目標に	京都でCOP3開催、京都議定書を採択
1998年	COP4	ブエノスアイレス		・「地球温暖化対策推進法」を制定 ・地球温暖化対策推進本部が地球温暖化対策推進大綱
1999年	COP5	ボン		改正「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」施行
2000年	COP6	ハーグ、ボン		
2001年	COP7	マラケシュ	IPCCが「人間活動が過去に例をみない気温上昇の原因」、「その緩和策の重要性と有効性」を報告	
2002年	COP8	ニューデリー	持続可能な開発に関する世界首脳会議	・京都議定書締結を国会承認。京都議定書の担保法「地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律案」成立 ・京都議定書の受諾を閣議決定し、国連に受諾書を寄託
2003年	COP9	ミラノ		
2004年	COP10	ブエノスアイレス		
2005年	COP11	モントリオール	京都議定書発効。法的な拘束力が発生	
2006年	COP12	ナイロビ		温室効果ガスを一定量以上排出する者に対し、「温室効果ガスの算定・報告・公表制度」を導入
2007年	COP13	バリ島	・先進国首脳会議（G8サミット）で、地球温暖化問題を最重要課題に議論 ・IPCCにノーベル平和賞	「クールアース50」を発表、G8サミットで提案
2008年	COP14	ポズナン	・世界的金融危機リーマンショック ・京都議定書第一約束期間スタート	G8北海道洞爺湖サミット。全世界の温室効果ガス排出量を2050年までに50%削減のビジョンを国連気候変動枠組条約の全締約国と共有し、交渉を経て採択を求めることを確認。
2009年	COP15	コペンハーゲン	COP15で地球の気温上昇を2℃以内に抑え、2050年までの世界全体の排出量50%減、その削減の各国の目標（2013年以降）やそのための行動等について取り決め	太陽光発電システムで作られた電力のうち、自家消費で余った電力を電気事業者が従来の2倍程度の価格で買い取る制度を導入
2010年	COP16	カンクン		・エネルギー基本法に基づく「エネルギー基本計画」改定を決定 ・2030年目標として原発を含むゼロ・エミッション電源比率を34%から約70%に引き上げ等
2011年	COP17	ダーバン		・東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故発生 ・「革新的エネルギー・環境戦略策定に向けた中間的な整理」で、「原発に依存しない社会を目指すべきでエネルギー基本計画を白紙撤回する」とした
2012年	COP18	ドーハ		・第4次環境基本計画で、2050年までの温室効果ガス削減長期目標を宣言「1990年比80%減」 ・再生可能エネルギーの固定価格買取制度導入開始
2013年	COP19	ワルシャワ	・1992年の地球サミットから20年 ・国連持続可能な開発会議（リオ+20）	地球温暖化対策推進法を改定、「京都議定書目標達成計画」に代わり「地球温暖化対策計画」策定へ
2014年	COP20	リマ	IPCCが「気温や海面の上昇等についての具体的な予測」などを報告	
2015年	COP21	パリ	・COP21でパリ協定採択。日本は2030年度の削減目標「2013年比で26%減」を表明	・政府の地球温暖化対策推進本部が国民運動「COOL CHOICE」の展開を宣言 ・G7エルマウ・サミットで、日本は、2050年までに2010年比で40%から70%の温室効果ガス削減を表明
2016年	COP22	マラケシュ	パリ協定が発効	パリ協定を締結

（愛知県田原市）